

変わる授産施設・福祉作業所

アクセスぐんま

障害者の自立を支援したり、働く場を提供する授産施設や福祉作業所が変わりつつある。こうした施設での仕事は、袋詰めや包装される単純作業が中心だったが、ハム・ソーセージやパンの製造販売など、独自の取り組みを試みる施設が増えてきた。不況で企業からの受注が減っていることや、自主製品も魅力がなければ売れなくなっていることが背景にある。変わりつつある授産施設、福祉作業所の現場をのぞいた。

量によって、利用者の賃金を七段階に分けている。三十人いる利用者の月平均賃金は約二万五千円、ハム・ソーセージ部門は約三万五千円と高い。金谷施設長は「うちには『三万三千元は自立のナンバー』という言葉がある」と話す。賃金が月三万三千元なら、これに福祉年金などを加えたと人々施設職員が約四十種類の製品を製造。その大半が都内の大手デパートやレス・トラン向けに出荷される。「授産施設は障害者の自立のために経済的基盤をつくり、能力のある人を一般企業に就職させる場所。そのためにもっと賃金を上げたい」と金谷施設長。新当。菓子パンや調理パンなどを行っている。

「カーブは少しずつ、その中にある店舗。施設の利用者が作ったパンを販売している。前橋市東上野町

たにキムチやジャムの製造販売を計画し、月平均三万五千円を目指している。

■自立するには月3万円必要



前橋市東上野町の身体障害者通所授産施設「わくはうす・すてっぴ」(鈴木)菓子施設長は「二〇〇〇年四月に開設された。施設ではパソコンによる印刷やホームページの作成、陶芸、木工製品とパンの製造販売を行っている。パンの製造販売は利用者ごとを作っている。生地を分けてもらったり、パンに挟む具の調理などが仕事だ。パンは施設内の店舗での販売だけでなく、注文に応じて配達も行う。店の喫茶コーナーでは、利用者がコーヒーなどを提供する。パン部門の利用者の月平均賃金は、県内授産施設の一万三千円を上回る約一万五千円。だが、施設では利用者が自立するのに必要な賃金は月三万円とみる。鈴木施設長は「障害者は人によって違う。障害の重さに見合う仕事をつくり出したい」と話している。

不況、受注減パネに

魅力ないと売れない

授産施設や福祉作業所が、独自商品の開発や新しいサービスの開拓に乗り出す背景の二つに、経済環境の悪化がある。

授産施設や福祉作業所、雇用環境の厳しさが、独自製品の魅力が減り、独自製品も魅力がないと売れない時代」と

人が作業所に戻ると月一、二万円になってしまふケースも。袋詰めや簡単な組み立てなどの軽作業だけでは、自立していくだけの収入を必要とする専門家派遣や、ホームページで施設間、県民との情報交換などを行っている。

開発支援へ専門家派遣

■パンやハム・ソーセージ製造

群馬労働局によると、県内事業所で解雇された障害者は一九九七年度は二十八人だったが、九八、九九年くるリターン組が自立活していくために「一定の確保するのが難しい」とい

製品で増収